

TAMA ART UNIVERSITY OIL PAINTING 2024

多摩美術大学
絵画学科 油画専攻

TAMA ART UNIVERSITY OIL PAINTING 2024

油画専攻とは

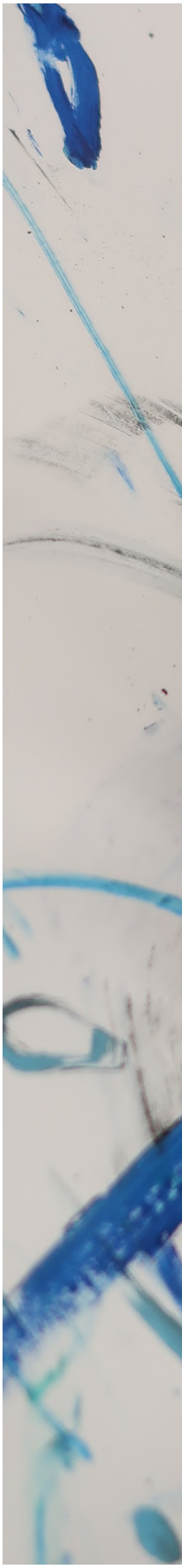
多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻は、
日本の現代美術の歴史を幾つも作ってきた学び舎です。
学生一人一人が自身の表現とまっすぐ向き合う学風、
そしてそれを実現する環境がここにはあります。

学生は教員や研究室スタッフとともに、
自立した表現者として物を作る歓びの果てしない道を歩んでいます。
こうした自由闊達で幅広い表現活動を実現するため、
技術的な基礎訓練はもちろん、
人間がどのように空間や時間を捉えて来たか、
そして拡張された現代のさまざまなメディアの中の無数の表現方法、
美についての幾つもの思想を学びます。

パフォーマンス、映像、陶芸、樹脂、テンペラ、銅版画、
日本画、下地研究と、多様な技法講座に加え、
様々なジャンルの表現者による特別講義、PBL授業、
海外の提携校との交換留学が用意されています。
仲間たちとの日々の制作と展示発表、多くの講評会、
研修旅行を通じての教員や助手との語らいなど、
表現者として生きるとはどういうことか、
そしていま表現せざるを得ない対象は何かを各々が見出していきます。

ここで培った大切な時間は、卒業後のそれぞれの目標、叶えたい夢、
突き進みたい表現の領野へと繋がっています。
ある者は教育者として生徒たちと真摯に向き合い、
ある者はデザインをはじめとするクリエイティブな仕事へ、
そして大学院進学や留学を選ぶ者も大勢います。

それぞれの方法で
新たな時代を切り拓くアーティストとして
世界に羽ばたいて行きます。





油画の歴史

多摩帝国美術学校が創立した1935年、牧野虎雄主任教授のもと西洋画科が開設されました。「多摩美油画」のはじまりです。その後大戦を挟み、専門学校、短大を経て、1953年に多摩美術大学絵画科油絵が4年制大学として発足しました。教授陣に中村研一、林武、川端実、岡田謙三、鈴木信太郎、鈴木誠、宮本三郎、末松正樹、大沢昌助ら第一線で活躍する作家が集結し、現在にいたる多摩美の油画教育の礎となりました。当時の校友会誌「多摩美術」第3号の中村研一による巻頭言には、「朝どんなに早く来ても、夕方どんなにおそくまで居ても何とも苦情をいふ人は無い。勉強する人にこれより寛大な学校は無い。私学の良さがそこにある。なまけ者は来ないがよい。皆が火の弾になって向上する所である。」と書かれています。自由でリベラルな学科のカラーはすでにこの頃から始まっていました。その後、福沢一郎、駒井哲郎なども加わり、1965年の斎藤義重、そして68年高松次郎の着任によって「現代美術の多摩美」が美術界に印象付けられていきました。そのことをもっとも顕著に表しているのが「もの派」と呼ばれた作家たちの活躍です。関根伸夫、菅木志雄、吉田克朗、本田真吾ら「もの派」の中心的メンバーは、すべて斎藤義重教室の卒業生です。特に斎藤教室の助手となった関根伸夫によって1968年に発表された「位相－大地」や、1970年の「空相」は、日本現代美術の大きな転換点として、また世界の美術をリードする作品として多くの作家に影響を与えました。その後「もの派」の理論的支柱であった李禹煥が客員教授に就任、さらに若林奮、辰野登恵子、堀浩哉なども教授として迎えられ「現代美術の多摩美」をリードする油画専攻は日本の美術大学で最もアクチュアルな研究室となっていったのです。「現代美術の多摩美」その伝統は現在も生き続け、絵画はもちろんのこと、メディアやジャンルを横断する自由な表現を支えるため、研究室はさまざまな領域で表現活動をする教授や講師、助手らによって構成されています。そして、「今」という時代に即応する自由でリベラルな学科のカラーが息づいています。

絵画学科 油画専攻 教授 小泉俊己



菅木志雄 常盤公園 東京 1977年8月20日



斎藤義重「斎藤義重展」アネリージュダ・ギャラリー ロンドン イギリス 1992年5月27日



斎藤義重 名古屋 1975年3月7日



菅木志雄 常盤公園 東京 1974年1月



李禹煥「李禹煥展」ピナール画廊 東京 1971年1月11日

P4の写真全て、及び、P5上写真：元客員教授 安齋重男先生 ドキュメントフォト
所蔵：多摩美術大学アートアーカイヴセンター



関根伸夫 志木市庁舎前 埼玉 1972年6月12日



写真撮影：塙 龍太／『現在、多摩美術大学 八王子キャンパス正門前に設置されている「空相」(関根伸夫・2003年)』

4年間の流れ

教育課程

4年間を通じて、自由な創作活動を支える根源的な力を身につけるため、1年次では、対象への観察力と描写、2年次からはクラスごとに分かれ、複数の異なる課題に取り組みながら、独自の表現を探究します。さらに、課題提出ごとに開催される批評会を通じて、制作についての考えを言葉で他者に伝える力も養います。3年次以降は、自らで着想した主題や動機を作品にしていくための制作研究に取り組みます。どのクラスを選択しても個々の自由な表現を尊重し、双方向的な指導を行いながら、自立した表現者としての自覚を促します。また、学内ギャラリー展示などの発表の場を通じて、広く社会に向けて作品を発表する力を培います。

1年次

課題を通して絵画、
造形表現の基礎を身につける。

実技1

共通の課題制作と、課題毎に行われるその背景となる理論や知識の講義を通し、実技と理論の両面から造形表現の基礎を学び、徐々に表現の幅を拡張していきます。

共通基礎課題

2年次

表現力や技術を身につけながら、
自分が求める制作の方向性を探っていく。

実技2

複数の教員からなるクラスに分かれ、それぞれ異なる課題に取り組みます。2年次以降は、学年が上がるごとにクラスを新たに選択します。

クラスの選択

専任教員2名／非常勤講師1~2名
学生(各学年)22名程度

Aクラス	Bクラス	Cクラス
Dクラス	Eクラス	Fクラス









3年次

自ら着想した表現を、
より深く追求していく。

実技3

各研究室毎の指導体制のもと、教員と学生との双方向的なやりとりを通して、広い視野を身につけていきます。クラスごとにホール展示を行います。

クラスの選択

専任教員2名／非常勤講師1~2名
学生(各学年)22名程度

Aクラス	Bクラス	Cクラス
Dクラス	Eクラス	Fクラス

4年次

多角的な視点からの指導を受けながら
独自の表現を作り上げていく。

実技4

卒業制作に向け、講評や面談をしながら、自らの目標に沿った制作に取り組み、卒業制作展を行います。

クラスの選択

専任教員2名／非常勤講師1~2名
学生(各学年)22名程度

Aクラス	Bクラス	Cクラス
Dクラス	Eクラス	Fクラス



クラスの形態

クラスは6組からなり、それぞれのクラスは専任教員2名、非常勤講師1~2名、学生（各学年）22名程度により構成される。教員の構成は隔年で組みかわる。学生は、2年次以降毎年クラスを選択する。

学年紹介

1年

全クラスが共通の課題を行います。前期は人物や風景などを通して対象を見ることから出発します。そして、現代美術の始まりである抽象絵画の実践を通して、見えないものや時間表象、物とイメージなど、構造や関係の抽出を学びます。後期は前期で学んだ現代絵画の基礎をもとに、作品を成立させるためのコンセプトを学ぶユニークな課題を行います。



石井裕治／課題Ⅰ「人物」／成果作品／2022年

課題Ⅰ「人物」

ポートレート。
特定の人物を絵、写真、映像、
立体のいずれかで表してください。

課題Ⅱ「風景」

屋外で風景を描く。

「技法講座」

8つの講座から選択し、
基礎技法について学ぶ。
（1・2年共通）

2年

引き続き課題制作を行います。1年で学んださまざまな表現の冒険を、各々の問題意識の中で具体的に探究し作品へ昇華させます。ユニークな課題に対し、それぞれが表現者として向き合っていくのです。2年次より、2名の専任講師と非常勤講師によるクラス体制がはじまります。より高度な内容に対応するための双方向的で細やかな教育環境です。



伊東理子／課題Ⅰ「グリッド」／成果作品／2022年

Aクラス

課題Ⅰ「個人−社会−美術」
課題Ⅱ「スケッチ散歩」
課題Ⅲ「反復と刹那」
課題Ⅳ「自由制作」

Bクラス

課題Ⅰ「1000枚ドローイング」
課題Ⅱ「矛盾」
課題Ⅲ「手紙」
課題Ⅳ「自由制作」

課題Ⅰ「グリッド」
課題Ⅱ「インタビュー」
課題Ⅲ「サイトスペシフィック」
課題Ⅳ「自由制作」

※課題は年によって変更します。課題文は2021年のものです。



木下友里／課題Ⅱ「風景」／成果作品／2022年



吉田昂司／課題Ⅲ「観察」／成果作品／2022年

課題Ⅲ「抽象」

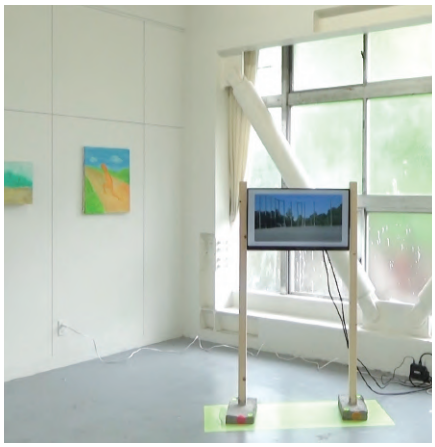
前課題の「人物」「風景」から、さらに表現の拡大を目指す。基本的には絵画を中心とするが、他も可能である。抽象や他のジャンルへのチャレンジの場としてほしい。

課題Ⅳ「ドローイング」

素描やデッサンとも呼ばれるこうした絵画には、油彩のような物質的強度のある絵画とは違う豊かさの中に、それぞれの表現者が持つ本質的な力の形が残される。そのようなものを目指す。

課題Ⅴ 「観察」

作ること、表現することを考えるのではなく、まず観察することから始める。何もないと思っていたところを敢えて見る。空想や妄想をするのではなく「現実の観察」に努める。



中川愛茉／課題Ⅰ「見ながらつくる」／成果作品／2022年



藤谷健人／課題Ⅲ「大ドローイング」／成果作品／2022年

Cクラス

課題Ⅰ 「自分のいる場所」

課題Ⅱ 「自分とオマージュ」

課題Ⅲ 「色で音楽を奏でる」

課題Ⅳ 「大ドローイング」

Dクラス

課題Ⅰ 「交換日記」

課題Ⅱ 「場と物」

課題Ⅲ 「リサーチ
-あなたと美術の関係-」

課題Ⅳ 「より深く、
より大きく、より新しく」

Eクラス

課題Ⅰ 「言葉じゃダメなこと。」

課題Ⅱ 「果たして何を見たのか」

課題Ⅲ 「インスタレーション
（空間/配置）」

課題Ⅳ 「低い」ということを、
「高い」ということで表現

「狭い」ということを、
「広い」ということで表現

「速い」ということを、
「遅い」ということで表現

Fクラス

3年

3年次より自由制作になり、自らの目標にそって作品制作に取り組みます。造形表現についての様々な理論や、社会に対する表現者としての問題意識など、各々の表現を追求するためのゼミも予定されています。



伊倉大晴 上／「学内風景」／アクリル、クレヨン、サインペン／116.7×910cm
下6点／「泥ーイング」／クレヨン、アクリル／21×29.7cm(A4画用紙6枚)



益川結衣／「home」／糸、油彩、キャンバスロール、木枠／162×130.3cm

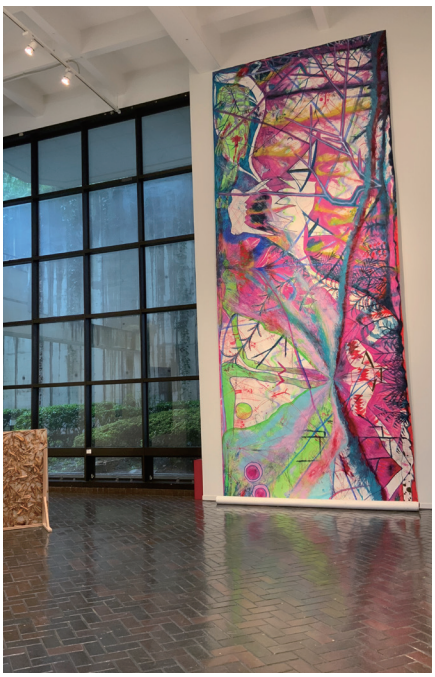


榊佳音／「pride」／アクリル、キャンバス／194×324cm

ホール展

油画専攻には広い吹き抜けのギャラリーがあります。大きな作品も発表できるここでの展示は、表現の冒険を試みる大切な経験になるでしょう。





ゼミ研修

3年生を対象にゼミ研修を行います。日本各地に赴き、郷土文化や自然に接し、美術作品や建造物、伝統工芸等に親しみかつ研究します。また、古美術に触れることだけでなく、先端の文化および芸術活動にも注目し、タイムリーな展覧会や美術館など日本各地に足を運びます。











（2019年度開催）

4年

4年間の創造活動の集大成として、卒業制作の発表を行います。学内展、そして国立新美術館での五美大展の発表は、表現者として社会へ旅立つ上での大きな一歩になるでしょう。優秀作品には福沢一郎記念美術財団より福沢一郎賞が授与されます。



宇佐美妃湖／「アンタ誰？」／ミクストメディア／可変



新保 花奈／「The forest」／インスタレーション／可変



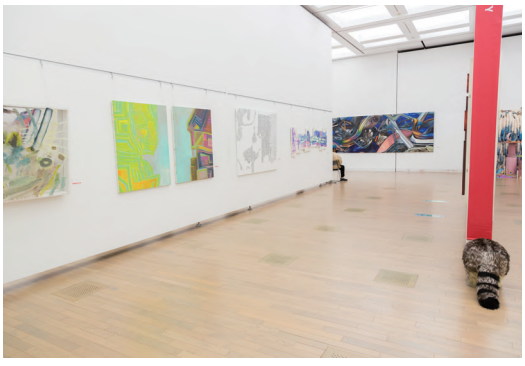
濱田楓／「拠り所Ⅱ」／キャンバス、水可溶性油絵具／194×259cm



渡邉歩実／「ii」/油彩、キャンバス／162×130.3cm

五美大展





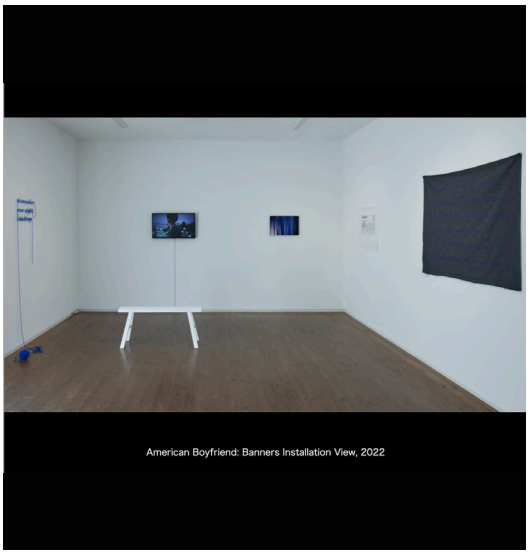
油画特別講義紹介

特別講義

さまざまなジャンルの第一線で活躍する作家、批評家、学芸員などをお招きし、特別講義を行います。また、教授による自作解説や芸用解剖学講義などもあります。今後も学生に刺激を与える講義を予定しています。



吉増剛造氏／特別講義／2018年



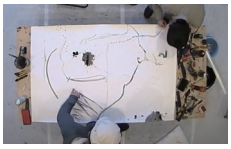
非常勤講師作品紹介／ミヤギフトシ先生／2023年（©高橋健二）

ワークショップ

線を引くことをさまざまな方法で試しながら、身体的感覚を研ぎ澄ましていく、淺井裕介先生によるワークショップ形式の授業です。学生と共に教員も参加し、数日間に渡って空間全体を巨大な作品にしていきます。









淺井裕介先生ワークショップ「野生のドローイング-軌跡の刻印-」



淺井裕介先生、鈴木ヒラク氏 特別講義「野生のドローイング2022」

技法講座

1、2年次合わせて2度の集中講座期間を設けて幅広く技法を学びます。テンペラ、樹脂、映像、パフォーマンス、陶芸、銅版画、日本画画材、下地研究の中から選択します。

テンペラ



樹脂



映像



パフォーマンス



陶芸



銅版画



日本画画材



下地研究



大学院紹介

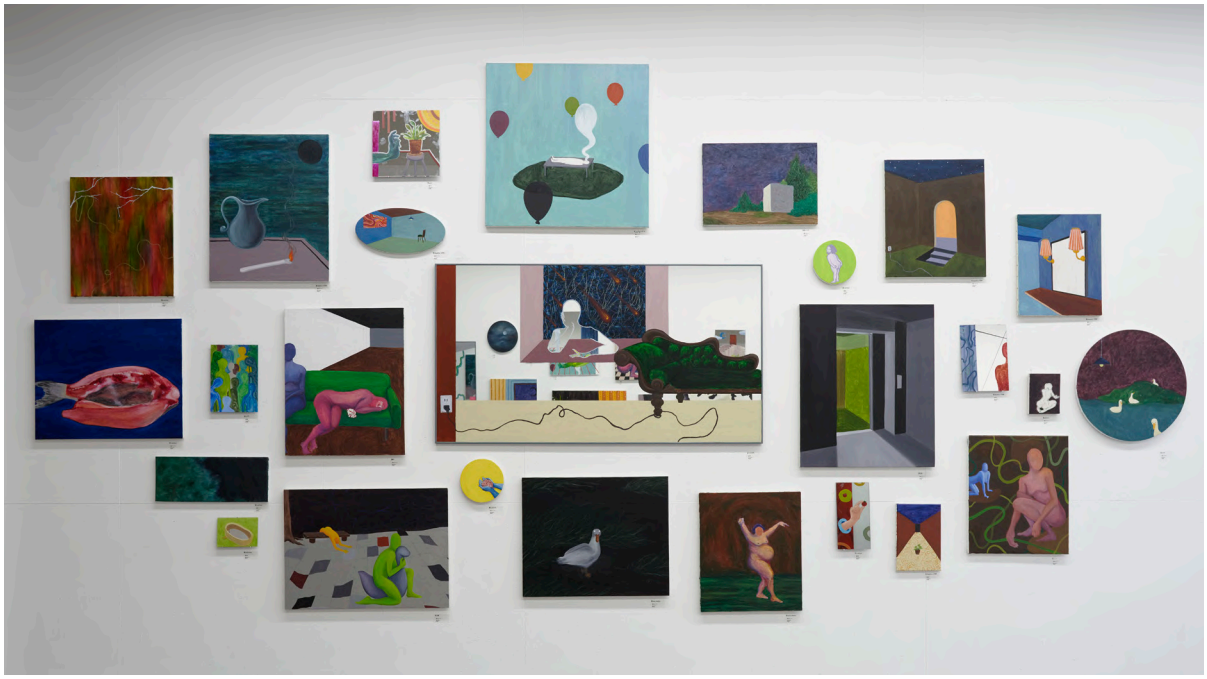
2年間を通じ、学部で学んだ知識や技術にさらなる磨きをかけ、芸術や社会について幅広く考えることのできる芸術家を養成します。教員選択制による批評会を年に2回行います。2年次には修了制作にも取り組み、優秀作品には辰野登恵子賞が授与されます。

カリキュラム

絵画制作研究	修了論文	修了制作	学外ゼミ



山口彩紀／「ももものうろこ」／キャンバス、油彩／162×130.3cm



曹士雅／「overthought」／ミクストメディア／可変



安部祐生／「期待の前に」／ミクストメディア／可変

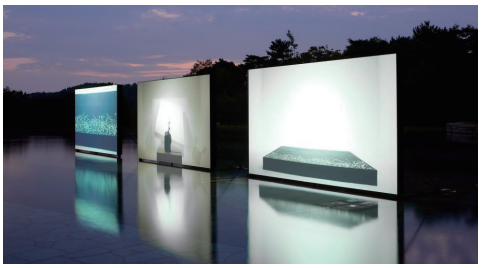
教員紹介

教授



石田 尚志 Ishida Takashi

作品を作ることは誰かへのプレゼントのようなものだと思う。そして、自分自身が本当に見たいものを自分のために作る行為でもある。だから表現の旅は無限だ。





菊地 武彦 Kikuchi Takehiko

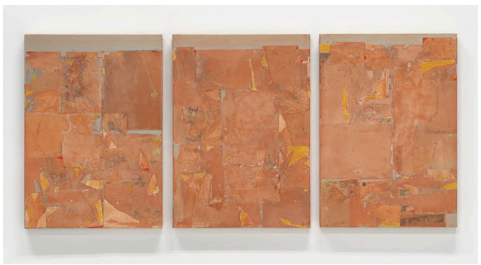
美術の中にはものの見方を変える作用が含まれています。美術と出会うことで、人生は少しだけ豊かになります。もちろんそこに至るまで多くの努力が必要でしょう。しかし続けていけば何らかのかたちで結実します。目の前がパッと開ける楽しい瞬間は、必ず訪れます。





木嶋 正吾 Kijima Shougo

見えない形、解読不能な形、不完全で何か足りない形には、豊かなイメージと可能性があるように思えてなりません。身近な素材を解体、再構築し制作していますが、好奇心を大切にして絵画と向き合っていきたいと考えています。





栗原 一成 Kurihara Issei

自分以外の人たちが、絵について芸術について、何を感じ、何を考えているか、興味があります。若い人たちの考えていることにも興味があります。学生の皆さんとたくさん話をしたいと思っています。





小泉 俊己 Koizumi Toshimi

メディアやジャンルにとらわれず自由な表現を認め合い、ダイナミックに世界と向き合うことが我々の使命だと思う。





髙柳 恵里 Takayanagi Eri

何をどのように扱うか、様々な方法で制作を続けてきました。誰も良いとも悪いとも言ってくれないところで価値は自分で決める、ということを心がけてきたように思います。表現においては、起きている出来事に接して果たして自分はどう反応するのか、表面的にならずにその現実に迫ってもらいたいと思います。





中村 一美 Nakamura Kazumi

抽象絵画の歴史的展開に興味があり、様々な実験的作品を制作してきた。社会の変転が芸術に及ぼす影響も多大と考えている。





日高 理恵子 Hidaka Rieko

「生涯をとおして続けられることはなんだろう？」この高校生の時の問いが始まりでした。次第に絵を描くことを通して考え、想像するようになりました。この考える力、想像する力、この力そのものに向き合うことを、私はまさに美大というこの場で知ることができました！





村瀬 恭子 Murase Kyoko

絵画棟の裏山で頭を揺らす竹、空に新芽を伸ばす青松の輝き、瑞々しい風が私に吹きそよぐ。この広大な環境で想像力を解放する学生たちとの出会いがある、その時間の密度が宝ものになって欲しい。





吉澤 美香 Yoshizawa Mika

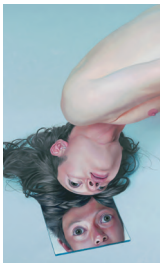
自分では作り得ないものや現実には存在しないものでも、絵に描いてしまえばなんでも出現させることができるのが絵のいいところ！





日野 之彦 Hino Korehiko

大学生のときモデルを描く授業に没頭して、それ以来授業がなくても人を描くようになって今にいたります。人間の姿は日常で目にしていますが、描いているときは普段とちがった存在感を感じることができます。



准教授



千葉 正也 Chiba Masaya

美術とは極限まで豊かな話し合いの場みたいなものだと思っています。願わくば目一杯楽しんで欲しいです。



客員教授



O JUN

1982年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了画家。

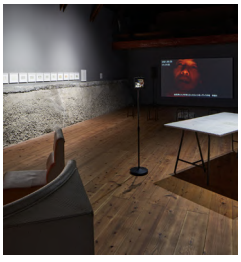


©O JUN Courtesy of Mizuma Art Gallery
撮影：宮島径

何を描こう、どう描こう、なぜ描くの、こんなの描いた、もう描かない。絵を描き始めてからずっと堂々巡りしています。たかが絵なんですけど、ついこのメディウムのせいにしてしまって…実は絵を描くこの僕が問題児なわけで…ともかく、あとは意地と気力と欲望で。ここまでおいで、絵のなる方へ。



蔵屋 美香 Kuraya Mika



ゲストキュレーション「すみっこ☆CRASH」
2022年、無人島プロダクション
撮影：森田謙次

東京国立近代美術館勤務を経て、2020年より横浜美術館館長。学部で油彩の制作を学び、大学院で美術史と芸術学を勉強しました。この経歴を生かし、制作の人こそ知っておくべき美術の歴史や理論の話をしたいと思っています。



塩田 純一 Shioda Junichi



美術評論家。前新潟市美術館長。水と土の芸術祭2018アート・ディレクター。わたしが学芸員として働き始めたのは、1979年のこと。主に現代美術の領域で展覧会をつくってきましたが、そのなかで出会った忘れがたく豊かなメッセージを伝えたい。



松浦 寿夫 Matsuura Hisao

画家・批評家
元武蔵野美術大学教授



制作は生のあらゆる局面と連関しています。そして、制作も生もつねに、何らかの選択にさらされています。それがごくささやかな選択であるとしても。いくつもの選択を連鎖させることによって展開する制作において、選択されたものは、つねに選択されなかったものとの対立関係を形成しています。この対立関係の大きさが強度を産出するはずです。重要なことは、勇気を持って選択することだと思います。

非常勤講師

淺井 裕介 Asai Yusuke





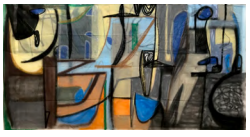
飯山 由貴 Iiyama Yuki





小林 丈人 Kobayashi Taketo





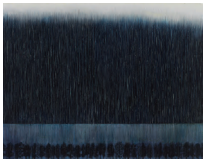
地主 麻衣子 Jinushi Maiko





髙木 大地 Takagi Daichi





中尾 拓哉 Nakao Takuya





「マルセル・デュシャンとチェス」(平凡社、2017年)

ミヤギ フトシ Miyagi Futoshi

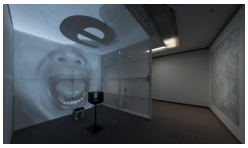




足立 智美 Adachi Tomomi

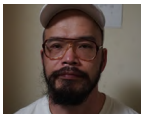


©Guillaume Kerhervé / Maison de la Poésie de Nantes



国際芸術祭「あいち2022」でのインスタレーション(2022)
©ToLoLo studio

榎本 耕一 Enomoto Koichi





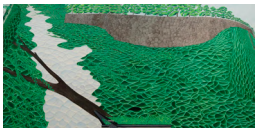
齋藤 春佳 Saito Haruka





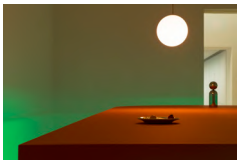
鈴木 星亜 Suzuki Seia





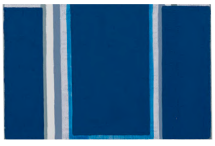
玉山 拓郎 Tamayama Takuro





八重樫 ゆい Yaegashi Yui





技法講座教員

パフォーマンス
雨宮 庸介 Amemiya Yosuke

映像
鈴木 余位 Suzuki Yoi

下地研究
山田 淳吉 Yamada Junkichi

樹脂
井上 裕起 Inoue Yuki

陶芸
林 麻衣子 Hayashi Maiko

テンペラ
川井 徳寛 Kawai Tokuhiro

銅版画
原 陽子 Hara Yoko

卒業生の活躍

画家

許寧(シュ・ニン)

Xu Ning

撮影:若林亮二
Photo:
Ryoji Wakabayashi



1979年北京生まれ。北京の首都師範大学油画専攻専科卒業後、2006年家族とともに日本へ移住し、2020年多摩美術大学大学院修士課程絵画専攻修了。現在神奈川県を拠点に制作。
■[主な個展]:2023「Starting with a Tear – HISTORY(涙からはじまる – ヒストリー)」(小山登美夫ギャラリー／東京)
■[主なグループ展]:2021「第24回岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)」(川崎市岡本太郎美術館)
■[受賞歴]:2018「福沢一郎賞」、2020「辰野登恵子賞」、「アートアワードトーキョー丸の内2020」グランプリ、2021「第24回岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)」入選。



許寧「Starting with a Tear - HISTORY」／キャンバス、油彩／181.8 x 227.3 cm／2023年

多摩美へ進学した理由、受験期について教えてください。

北京日本大使館の図書館のスタッフを通じて、多摩美術大学のことを知った。多摩美の受験は予想以上に難しく、合格するまで6年かかり、長かった。中々受からなかったことで、諦めようと思ったことも度々あった。一度中断して、仕事をすることもあったが、やはりここで美術を研究したくて、受験を続けた結果、合格した。

大学生活で得たものについて教えてください。

在学中、私はアルバイト以外の日は殆ど大学で過ごした。授業と制作の二つのことを中心とした。そのお陰で、視野を広げることができ、更に自分の感性を磨いてくれたことは一番得たことだと思う。その感性は私の絵画を自分の理想としている世界へ近づくことへ導いてくれる。6年間の大学生活は私にとって、大切な時間だった。

日本に来て勉強に励む中で困ったこと、またそれをどのように乗り越えたかを教えてください。

私にとって、自分自身が一番の課題である。今もそうである。私は受験で落ちた時、とてもかなしくなり、傷つけられたと感じ、現実から逃げたくなったことがあった。私は「目標があり、実現できなさそうで、しかしあきらめたくない、辛い。」という隙間に挟まれた時、もう実現しなくていいから、受験したくなくなるまでやり切ると決めた。

ご出身である北京と日本の美術を取り巻く環境について、何か感じる差異はありますか?

その国の文化背景の上に、美術があると思う。北京には優れた経済の発展のお陰でできた、代表的なギャラリー地域798という誰が来てもアートが楽しめる有名な場所がある。日本は私がきた2006年の時から、年々、年中大規模な美術展が行われている。それで、沢山の展示を見られた。これから両国の美術交流を期待する。

油画専攻への受験を考える人へ向けたメッセージをお願いいたします。

私にとって、油画専攻はとても自由にできる専攻で、絵画、映像、パフォーマンス、立体、インスタレーション、漫画など様々のことができる。自分の最もやりたいことを心から信じて、努力することができたらいいなと思う。結果より過程を楽しめて夢中になることができたら、きっと想像以上に得ることがあると思う。

シネマティック
アーティスト
マットペインター

中原 さとみ
Nakahara Satomi



多摩美術大学 絵画学科 油画専攻卒業。
国内でフリーランスのジェネラリストとして実写合成やフルCG映像制作を経て、カナダのVFXプロダクションMPCにてデジタルマットペインターとしてハリウッド映画に携わる。
2020年に映像制作会社SAFEHOUSEへ、シネマティックチームのスーパーバイザーとして入社。





「The Guardian ©SAFEHOUSE and BLACK AMBER」

多摩美へ進学した理由、受験期について教えてください。

正直に書きますと、3浪目だったこともあり私大受験を考えたときに、先に入学した人たちの話をいろいろと聞いて、自主性を大事にしてくれそうなのが多摩美だったので決めました。

大学生活で得たものについて教えてください。

文化人類学や民俗学、映像についての授業など、大学に入らないと出会うことのない授業に刺激を受けました。多摩美で沢山のインプットができたことは、制作だけでなく今の自分の糧になっています。

今のお仕事を目指すきっかけは何ですか？

ゼロから何かを生み出すよりも1を100に持っていくことのほうが得意だったので、頼まれたものをつくる環境がいいと思ってました。アニメ業界にも興味がありましたが、当時は映画やドラマの3DCGのほうがお給料や環境が良かったのでこちらを選択しました。

在学時の制作や活動は、どのような形で今のお仕事に繋がっていますか？

元々、大人数よりも一人で制作をすることが好きだったのですが、大学時代に展示などで他の人と協力して何かをすることが多く、そこにも面白さを感じるようになりました。いまの仕事で大切にしている、チームで作品をつくりあげるという部分はここから繋がっていると思います。

油画専攻への受験を考える人へ向けたメッセージをお願いいたします。

私はやりたいことが沢山あったので、あっちこっちに自由にやれる油画がとても合っていました。夢中になっていることをすべて受け止めてくれる環境です。ここでの経験は自分の延長線上に様々なきっかけをくれるはずです。

アーティスト

楊 いくみ
Yang Ikumi



2016年 多摩美術大学 美術学部 絵画学科 油画専攻 卒業
2019年 東京藝術大学 大学院美術研究科修士課程 油画専攻修了
現在：流通経済大学 社会学部 非常勤講師
■卒業後の主な活動：TOKAS OPEN SITE6 展示部門「When I quite eating tomato」（TOKAS本郷、東京）2021、個展「Notes on 24 minutes」（プロトシアター、東京）2021、グループ展「鮭」（アキバタマビ、東京）2020
■パフォーマンス制作：「玉山拓郎 個展〈Something black〉」Anomaly、東京）2023、「三野新 〈クバへクバから〉パフォーマンス プロジェクト」（三鷹Scool、東京）2022、「あいちトリエンナーレ2019 村山悟郎作品 〈Decoy〉」（愛知県美術館、愛知）2019



「トマトを食べるのをやめた時」／
パフォーマンス、インスタレーション／2021年
撮影：村田啓



「〈クバへ・クバから〉パフォーマンス プロジェクト」／
パフォーマンス、インスタレーション／2022年／撮影：三野新

多摩美へ進学した理由、受験期について教えてください。

高校生の時はデザイン科におり、高校生活は毎日課題に追われていました。課題とは違う制作がしたく、1年の時から半ば遊びがてらに放課後美術予備校に通い始めました。思えばその時から現代アートがやりたくて、それを一番学べる場所として多摩美の油画専攻を意識したように思います。

大学生活で得たものについて教えてください。

油画では教室が共同アトリエになっており、そこで制作することになるのですが、一人で悶々と作ったり、または同級生や先生、助手さんたちとアートってなんだろうとか、この表現どうするとか一生話したりして、その4年間の時間がいま自分の糧と支えになっています。

絵画や立体ではなくパフォーマンスという表現方法で油画専攻を選択した理由や、油画専攻で良かったことを教えてください。

私は入学当初からパフォーマンス作品を提出する稀な学生だったかもしれませんが、先生方は当然のように指導してくださいました。多摩美油画専攻は、表現そのものの可能性を研究する場所で、多くの表現に開いた授業とその歴史があり、その環境で作品を作れて幸せでした。

美術の授業でパフォーマンスを行うところは少ないと思います。ですので、そもそも楊さんにとって、パフォーマンスとは何か？そしてその魅力とは何かを教えてもらえたら嬉しいです。

「パフォーマンス」は日常で起こるあらゆる出来事や身体性に目を向ける作業だと思っています。パフォーマンスにしてやろうと思って世界を見ると、隣の人や動く社会が様々な角度、奥行きで見えてきます。私にはその世界がとても魅力的です。

油画専攻への受験を考える人へ向けたメッセージをお願いいたします。

このパンフレットをここまで読んでくれている人が油画専攻を志望してくれた場合には、絶対受かって欲しいです。受かったらすぐに表現の現場になります。受験期からやりたい表現があればガンガンやって、脅威の観察力と、柔軟な想像力で楽しんでください◎

［アキバタマビ21］

アーツ千代田3331内にある多摩美術大学が運営するアキバタマビ21。そこは若い芸術家たちが切磋琢磨しながら、既存のシステムや権威に依存することなく自らプロデュースし、自立、成長していくための開かれた発表の場です。油画研究室もその活動を積極的に支援しています。卒業生の展覧会やシンポジウムなどを通じ、卒業後も制作や発表活動のサポートを続けます。

移転のお知らせ

アキバタマビ21は、3331 Arts Chiyodaの閉館に伴い、第103回展の終了をもって展覧会を休止し、移設準備中です。移設後の詳細が決まり次第、大学ホームページなどでお知らせいたします。

中学校美術教諭

伊深 夏海
Ibuka Natsumi



1997年 埼玉県に生まれる。
■2017年 グループ展「妖コレクション」(八王子ajirochaya)、2018年 グループ展「美を創造する」(ギャラリーkazane)、2020年 グループ展「ていねいに生きていくんだ」(ギャラリーデザインフェスタ)、2022年 グループ展「ていねいに生きていくんだ」(ギャラリーrusu)、2022年、グループ展「つゆこおる」(ギャラリーTOWED)



「ずっと使っているから」／10×10cm／2023年



「よどみない日常」／116.7×910cm／2023年

多摩美へ進学した理由、受験期について教えてください。

自由な校風と緑豊かな部分に憧れ、進学をしました。現役時代は多摩美の他に滑り止めで美術大学を3校受けましたが、全て落ちてしまい不安な中、浪人し一浪でなんとか受かることが出来ました。

大学生活で得たものについて教えてください。

大切な仲間を得ました。アトリエを出てから、1人で制作活動を続けるのはとても心細く、不安でいっぱいでした。しかし、仲間たちが展示を行い、頑張っている姿や制作について相談し合えることで制作を続けることが出来ています。

入学時から教育現場を目指していたのですか？

教育現場を目指し始めたのは大学3年生で教職の先生に出会ったことがきっかけでした。それまでの私は教員免許に対して困った時の予防としか考えていませんでした。しかし、実際の教育現場の話や、教育に関する課題について対話を重ねていく中で危機感が芽生え教員を目指しました。

在学時や現在の制作活動、そして教育現場での実践がどのように繋がっていますか？

作品に向き合う中で答えや方向性が分からなくなった時、生徒の作品からパワーをもらいます。また、沢山の生徒がいるので様々な視点があり、日々新しい発見ができるのも教員ならではと考えています。生徒と一緒に作品を作ったり、考えたりすることで自分の作品の輪郭も見えてきたりします。

在学時や現在の制作活動、そして教育現場での実践がどのように繋がっていますか？

多摩美術大学は緑が多く、伸び伸びと制作をする環境が整っています。自由に制作する私たちを教授達も温かく見守って下さり、自分がやりたいことをめいいっぱいすることが出来ます。受験をしていると方向が分からなくなることがありますが作品を作り続けることが一歩だと思います。「成せばなる」の気持ちで私は受験期を乗り越えてきました。頑張ってください。







近年の受賞者

第57回神奈川県美術展・平面立体部門 県議会議長賞受賞

馬場 美桜子



「trans」／油彩、キャンバス ／162×194cm／2021年／©竹久直樹

アートアワードトーキョー丸の内 2022 審査員今村有策賞

鈴木 創大



「Delicious water」／インスタレーション／可変／2022年

Idemitsu Art Award 2022・学生特別賞

松浦 美桜香



「nn DOLL collage Ⅰ」／キャンバス、油彩／162.1×130.3cm／2022年

その他の受賞者

VOCA展

[2022]●VOCA賞受賞：川内理香子/17年大学院油画修了　[2018]●VOCA賞受賞：碓井ゆい/04年学部卒業　●VOCA賞受賞：幸田千依/07年学部卒業　●佳作賞・大原美術館賞受賞受賞：青木恵美子/10年大学院修士課程修了

CAF賞

[2021]●保坂健二朗審査員賞：佐藤菜々栄/22年大学院油画修了 [2015]●優秀賞受賞：村井祐希/17年学部卒業　●優秀賞受賞：吉田実穂/15年学部卒業

絹谷幸二賞

[2017]●第九回絹谷幸二賞受賞：西村有/04年学部卒業

岡本太郎現代美術賞

[2015年]●特別賞受賞：村井祐希/17年学部卒業

Idemitsu Art Award

[2022]●桝田倫広審査員賞：檜垣春帆/20年大学院油画修了●鷲田めるろ審査員賞：石川ひかる/大学院在籍●青木恵美子審査員賞：ナカバヤシアリサ/17年油画卒業●学生特別賞受賞：魏嘉/19年大学院油画修了　[2021]●ユアサエボシ審査員賞：松浦美桜香/学部在籍●学生特別賞：石川ひかる/大学院在籍 [2020]●鷲田めるろ審査員賞：堺大輝/大学院在籍　[2019]●角 奈緒子審査員賞：石山未来/22年油画卒業　[2018]●島敦彦審査員賞受賞：田中良太/08年学部卒業　[2017]●グランプリ受賞：町田帆実/18年大学院修士課程修了●島敦彦審査員賞受賞：末松由華利/10年学部卒業　●橋爪彩審査員受賞：矢島智美/18年大学院修士課程修了　●学生特別賞受賞：吉岡瞳/18年学部卒業

FACE展

[2023]●読売新聞社賞：橋口元/12年油画卒業 [2022]●審査員特別賞：飯島ひかる/21年大学院油画修了●グランプリ：新藤杏子/07年大学院油画修了●審査員特別賞：飯島ひかる/21年大学院油画修了 [2021]●グランプリ：魏嘉/18年大学院油画修了　●優秀賞：町田帆実/18年大学院油画修了　[2020]●審査員特別賞：檜垣 春帆/20年大学院油画修了　[2019]●審査員特別賞：小田瀧秀樹/86年油画卒業　[2018]●審査員特別賞：上田葉介/88大学院油画修了 [2017]●グランプリ：青木恵美子/10年大学院油画修了●読売新聞社賞：宮岡俊夫/08年大学院油画修了　●審査員特別賞：浜口麻里奈/11年油画卒業

おもな進路先

ゲーム・玩具 キャラクター

株式会社セガ
カプコン
カミオジャパン
グランゼーラ
コナミホールディングス
サンエックス
プラチナゲームズ
任天堂
スタジオフェイク

インターネット ソーシャルゲーム

アソビモ
サイバーエージェント
サイバーステップ
シーエーモバイル
セガゲームス
MUGENUP
ZOZOテクノロジーズ

教育・公務員

グローバルアイ
すいどーばた美術学院
埼玉県芸術文化振興財団
警視庁
朝日カルチャーセンター
東京都公立小学校・中学校・高等学校
埼玉県公立中学校・高等学校
神奈川県公立高等学校
千葉県立公立中学校
横浜市公務員
小学館アカデミー絵画倶楽部
有限会社芸術による教育の会

進学・留学

多摩美術大学大学院
東京藝術大学大学院

自主運営ギャラリー

4649

造形制作 舞台美術制作

(株)Mテック
エンブレム
株式会社東宝映像美術
スタジオ三十三
シミズオクト
マリ・アート
ハミルトン株式会社

アニメーション映像

イマジカデジタルスケープ
グラフィニカ
サンライズ
ジェー・シー・スタッフ
じゃっく
十文字
テレコムスタッフ
マッドハウス

その他

アクア
カインズ
カレルチャペック
ケイ・ウノ
世界堂
博報堂プロダクツ
ユザワヤ商事
DNPメディア・アート
ベネッセコーポレーション
ルイ・ヴィトンサービス株式会社
レザーアート
株式会社ホビージャパン

所属コマーシャル ギャラリー

TOMIO KOYAMA GALLERY
Kaikai Kiki
WAITINGROOM
Yutaka Kikutake Gallery

入試情報

油画専攻は、伝統的な価値観や美意識をも大切にしつつ、新しい時代に対応可能な、柔軟性に富んだ好奇心の旺盛な学生を望みます。現代の世界は、様々な問題を抱えています。一昨年からのコロナ渦をはじめとして地球環境や、人種問題、ジェンダーや貧富の格差、科学との新しい関係の構築等、グローバル化した世界は、社会や個人の在り方の再考と同時に、芸術における新鮮な考察をも求めています。個々に閉じこもりがちな社会ですが、芸術を通して相互のコミュニケーションの活性化を目指す積極的な学生を求めます。個々における自由が、社会や世界における自由と結びつく可能性があると考えるような学生を求めます。

一般選抜

学校推薦型選抜

募集人員: 10名

面接

提出物:

- **ポートフォリオ**
  これまでに制作した作品の写真をA4程度にまとめたもの
  ※出願時提出
- **油彩2点以内**
  アクリル絵具使用可
  2021年以降に制作されたもの(50号以内)
- **ドローイングファイル1冊**
  デッサン、水彩等10枚程度をまとめたもの(サイズ65×50cm以内)

一般方式

募集人員: 70名

専門試験

- デッサン(6時間)
- 油彩(6時間)

計300点

学科試験

- 国語(60分) 100点
- 英語(60分) 100点

計200点

計500点

共通テストI方式

募集人員: 50名

専門試験

- デッサン(6時間)
- 油彩(6時間)

計400点

大学入学共通テスト

- 国語 100点

計500点

外国人留学生選抜 帰国生選抜

募集人員: 若干名

専門試験

- 小論文(90分)
- 油彩(5時間)

面接

※入学試験の詳細については『2024年度 学生募集要項』にてご確認ください。(内容の変更がある場合があります)

2024年度入試日程

学校推薦型選抜

2023年11月18日(土) または 19日(日)

外国人留学生選抜帰国生選抜

2023年12月16日(土)、17日(日)

一般選抜(一般方式)

学科試験:
2024年2月6日(火)

実技試験:
2月9日(金)、10日(土)

一般選抜(共通テストI方式)

大学入学共通テスト:
2024年1月13日(土)、14日(日)

実技試験:
2月9日(金)、10日(土)

※上記とは別に、3年次編入学選抜、大学院博士前期課程(修士課程)選抜を実施しております。詳しくは学生募集要項をご確認ください。

多摩美術大学 絵画学科 油画専攻
192-0394 東京都八王子市鑓水2-1723
TEL : 042-679-5620（油画研究室）
042-676-8611（代表者番号）
Email : yuga@tamabi.ac.jp
WEB : https://www2.tamabi.ac.jp/yuga/

交通のご案内 :

〈JR横浜線・京王相模原線 橋本駅をご利用の場合〉
橋本駅北口バスロータリー6番乗り場から
神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」で約8分。
現金運賃=210円／IC運賃=210円

〈JR八王子駅をご利用の場合〉
八王子駅南口バスロータリー5番乗り場から
京王バス「急行 多摩美術大学行」で約20分。
現金運賃=240円／IC運賃=231円

Design: Werkbund
発効日 : 2023年7月16日



表紙画 :
豊田涼介「現象と共感する」
／ミクストメディア／可変

042-676-8611(Representative Call Number)　Mail:yuga@tamabi.ac.jp　https://www2.tamabi.ac.jp/yuga/

2-1723 Yarimizu hachioji-shi tokyo,japan 192-0394　Tel:042-679-5620(Oil Painting Laboratory)

Tama Art University